

令和7年度 信学会わかばの森こども園「職員自己評価」

Ⅰ 自己評価

A…十分達成されている B…達成されている C…取り組んでいるが、成果が十分でない D…取り組みが不十分である

項目	自己評価内容	評価			
		A	B	C	D
方針理解	1 園の保育・教育目標、本年度の重点目標を理解して取り組んでいる。	14	76	10	
保健管理	2 日常の健康観察や、疾病予防のため細心に注意をしている。	52	33	14	
安全管理	3 事故やケガ等発生時に危機管理マニュアルを生かして対応している。	5	90	5	
組織運営	4 園長は目標の達成に向け、職員をサポートしながらリードしている。	30	60	10	
	5 係の活動では内容の充実を図るために連携して、取り組んでいる。	35	29	35	
研修	6 園内研修では、指導者としてのあり方を我が身に寄せて考え、日々の保育に生かすことができた。		75	25	
園児捉え	7 日々の保育を振り返りと課題を明確にしている。	13	81		6
情報提供	8 クラスや園の情報を保護者や地域に的確に伝えることに配慮している。	26	61	11	
連携	9 保護者や地域と連携して保育をしようとしている。	28	56	17	
保育環境	10 子どもの成長に即した教育環境になるよう工夫を重ねている。	21	52	16	5
クラス活動	11 本園の大事にしている「豊かな感性を育む」ための活動を、子どもの意識と保育士の願いを生かして取り組んでいる。	29	71		

2 今年度の自分の取組・園の取組を振り返ったとき、良かったと思えること、課題は何ですか。

(1) 自身の取組・保育を振り返って

- ・表現や言葉の習得等に視覚教材を用いることで、力につながった。
- ・園庭で遊んだり散歩に出かけたりと外に出ることが多く、自然からの発見や気づきを沢山得ることができた。
- ・野菜栽培等、家庭ではなかなか経験できないことができた。
- ・子どもの気持ちに寄り添い共感する保育に心がけ、実践することができた。
- ・職員が力を合わせる時、積極的に手伝っている姿は、子どもたちにも良い姿として見られている。
- ・子どもたちや家庭との信頼関係を築き、楽しく安心して過ごせるようになってきたことで、子どもたち一人ひとりの成長を見ることができた。

(2) 園の取組を振り返って

- ・いろいろな行事や催しなどを経験したことで、子どもたちの感性が育ってきている。
- ・様々な行事を計画し、それに向け係を中心に準備し、子どものやりたい・楽しいを大切にしたことにより、子どもの成長につながった。
- ・職員全員が、子どもに寄り添った保育ができた。
- ・野菜作りは大変だが、子どもたちの生きる力を育てる上で大切だと思う。

来年度、園として、個人として取り組んでみたいこと、取り組んで欲しいことは何ですか。

- ・全職員が、子どもの様子にあわせて同じ思いで同じ立場で保育食育にあたっていきたい。お互いさまで、助け合いの保育をしていきたい。
- ・異年齢の交流を、意識して取り組みたい。
- ・現在の子どもの姿から、どのような保育環境が適しているか考えたい。
- ・子どもや職員の負担を減らせるように、行事の見直しをしたい。
- ・子どもたちも職員もワクワクする楽しいことを、もっと自由に実践できる園にしていきたい。
- ・未満を担任し、視覚教材の大切さを改めて実感した。レポーターを増やしていきたい。
- ・子どもたちが安心・安全に過ごせるよう、目を配っていきたい。
- ・食育に関する取り組み
- ・自然物を活かした活動や制作
- ・職員一人ひとりの得意なことをもっと活かす。
- ・公立保育園との違い、わかばとしての売りを本気で考えていきたい。
- ・職員の情報共有が更に必要と思う。
- ・職員から定期的に悩みや不安を聴き、安心して相談ができる環境をつくって欲しい。
- ・有休が取り易い環境にしてほしい。

### 来年度への展望(案)

#### (1) 本園のよさ

- ①子ども一人ひとりのよさに着目して、子どもに寄り添った保育をしようとしている。そのことで、子どもが自己肯定感をもって主体的、意欲的、創造的に活動をしようとしている。
- ②地域や保護者の方が園の願いを理解し、子どもの育ちを積極的バックアップしている。
- ③主体的な活動・創造的な活動をしようとして、保育士自ら意欲的に取り組もうとしている。

#### (2) 課題への対応

園の保育・教育目標（「相手意識」「本物」「共感」）や「育てたい10の姿」を意識し、子どもの豊かな感性が育つ遊び・暮らしを充実させたい。

- ① 子どもに寄り添い、子どもの心の動きや成長に気づく保育を進めるため、「子どものきらっと」光る姿を追い求めていく。
- ② 「育てたい10の姿」を意識して、環境を設定や関わり方を究明し、実践に繋げる。
- ③ 子どもや職員の負担軽減を図り、働きやすい職場づくりに努める。
- ④ 年3回の面談から、月1回は面談の機会をもつように努める。

### 3 令和8年度の重点 心豊かな園児の育成 合言葉「心豊かな、わかばの子」

#### <具体的な活動>

#### (1) 読書活動を通し言葉と心を育てます。

絵本は、言葉と絵で構成されています。心に残る物語に接して、そこに出てくる絵と共に言葉を獲得します。

言葉をたくさん獲得していると、「ウザイ」「きもい」「死ね」「消えろ」というような、感情をひとくくりにして叩き切るような言葉遣いをする子どもは育たないはずです。

先日、園門でお母さんが「あ、帽子忘れた」つぶやきました。すかさず「またかよう」と返した園児。母親へのお返しが適切だったかは別として、このタイミングでと、ほほえましくなりました。

子どもは、どんな言葉が相手の心を温め傷つけるかを、経験を通して獲得していきます。ただ、気を付けなくてはいけないのは、マイナスの言葉は獲得しやすく、心温まる言葉は獲得しにくいという難しさがあります。

優しい言葉・温かい言葉の使い手には、将来にわたって優しい心が育つと考えています。そのために、温

かい言葉のシャワーを、私たちが子どもにあびせましょう。

## (2) 健康な体をつくります。

健康な心は健康の体に宿ると言われています。強くたくましい体づくりを目指します。

室内運動や屋外運動を効果的に組み合わせ、発達段階に応じた運動を取り入れ、体を動かすことが好きな子どもの育成に努めていきます。

体を動かす機会を計画的に取り、その集大成としての運動会に組み立てていきましょう。

また、食は、健康な体づくりの重要な要素です。様々な食材を喜んで食べる、好き嫌いの無い子どもの育成のための食育指導に取り組みます。

## (3) 歌うこと演奏することを楽しむ、音楽好きな子を育てます。

音楽活動を計画的に取り入れ、楽器や歌に親しむ機会を大切にします。

私が見るところ、大きな声で歌えていて素晴らしいと思います。歌声や楽器の演奏なども、重要な表現活動です。皆で歌ったり演奏したりすることは、子どもが大好きな活動です。

令和8年度は、友だちの声や演奏を聴き合い、美しい歌声を作り上げたい。どう積み上げていけばよいかを検討いただきたいと思います。

## (4) 表現力の育成に努めます。

コミュニケーション力を高めるには、まず聴くことのできる子どもの育成が求められます。耳をそばだてて、保育士や友の話を聴く力をつけたいと思います。聴いてくれると分かれば、話し手も伝えようとする意欲がわきます。

子どもたちがこれから長い人生を歩むときに求められるのは、自己の思いを言葉で伝える力です。今からそれを意識して育てれば、子どもたちが幸せな人生を送ることができます。

子どもたちの幸せな遠い未来を思い浮かべながら、目の前の子どもを育てていきましょう。

さて、昨年度の発表会での子どもの演じる姿や歌う姿を見て、表現力が着実に付いていることを実感しました。1年間の積み上げを発表会で見せてもらい、表現する力を育てていくことの重要性を改めて学びました。自分の思いを自分の言葉で表現できる子どもの育成に、これからも力を注ぎましょう。

## (5) 「キラッと」を一層充実させて

今年度前期の研究のまとめや、園内研、日々の「キラッと」の取り組みは、優れたものがあります。子どもの育ちにつながるとともに、私たちの力量向上に役立っていると思います。

この流れを継承し、更なる力量向上を目指して、深化発展につなげたいと思います。子どもの気づきを大切に、科学の芽を育む取り組みを一層充実させましょう。